

鳥大医の叫び、生き残りに「キャンパス」限界です 市長と市議会に、鳥大医・再び球場跡地を要望

よなご市政版

会派・改進黨 遠藤とおる

医学部を守ろう

米子市の宝です

20,000人・宣言

市民有志の「医学部を守る会」が結成され、湊山球場廃止後の跡地は、「鳥大医に提供しよう」を合言葉に、20,000人を目標にした署名運動が幅広く展開されています。

鳥大医側は昨年の九月、市長と市議会に「球場廃止後の、跡地利用を、鳥大医に提供を」と、キャンパスの限界を訴える要望を再度提出されています。

市長は鳥大医の「要望」に、鳥大医と協議機関を設けて、協議を始めると表明しながら、球場跡地の活用は、鳥大医の「要望」を無視するかのよう「国史跡指定をめざし、公園計画」を強く主張し続けています。

市民の声、鳥大医の要望にも真摯に向き合わず、文化庁の専門官(一人の)の見解を命綱とし、民有地の買い上げを影に、遺構の存在を曖昧にした「文化財保護」の継承を説く市長に、米子市の未来は託せない。

鳥取大学医学部と湊山球場



医学生用の教育グラウンド、診療外来の駐車場確保(城山観光者と併用)等、史跡指定をやめて、医大・城山・中心市街地の賑わいの資源に活かしましょう!

(2015/3/14 日本海新聞掲載)



鳥大医・付属病院は 3,000人超の巨大産業

官立七〇周年を迎えた鳥大医学部と付属病院は、学生数1,340人・職員数1,990人の、3,000人を超える巨大な医療産業です。

今までに、全国に先駆けて導入した手術ロボット「ダビンチ」等、先進医療の開発・研究に成果を挙げ、米子市の地域経済に

多大な貢献をしています。

鳥大の発展&米子の繁栄

これからも、鳥大医と付属病院の発展は、「先端医療創造都市」をめざす米子市にとって、若者の定住・雇用・医療企業の誘致等、米子市の繁栄をもたらす宝です。

キャンパス「限界です」

「本音」の記者会見

昨年の十月、鳥大医の市への「再要望」の共同会見は、「移転も視野に」の報道が大きな反響を呼び、医学部長の辞任という異例の事態が起きました。

しかし、市民の反応は、「鳥大は、本音を語っている」という好意的な受け止めが多く、平井県知

鳥大医へ提供&史跡の庭づくりとどちらにメリットありますか

湊山球場跡地と

史跡公園計画の背景

平成20年8月、市長は突如、球場地を含む民有地(球場の一画・深浦・出山)を買い取る国史跡指定の追加構想を示した。

事業の理由を、球場の借地料の解消と用地、補償費などに、有利な国・県財源を強調した。

総事業費・9億3千万円、用地・補償費6億円。市費1億3千万円を予想、事業計画15年。

平成21年3月、議会の「誤答

事も、「施設の増設を繰り返してきたが、限界にきている。」と会見で表明されています。

この事態を、袂の米子市長がどのように捉え、鳥大医の「再要望」を、どれほどの「本気度」で応えるのか、市議会と共に市民の負託の真価が問われています。

「桜の庭園」を壊しても

球場跡地は、出せない!

湊山公園(桜の庭園)を提供する意見について、市長は「鳥大医から、要望の無いものを検討する考えは無い。あれば検討する。」と言いつづけています。

「桜の庭園」を切り倒せば、市政の新たな「火種」となります。

弁「から記者会見で陳謝。再検討を約束し構想を一時凍結。

平成23年6月、市民の総意を募ることなく、「国」の見解を盾に整備方針の再表明をした。

史跡指定後の球場跡

城山の駐車場もダメ

二の丸から天守閣跡の整備は、保安上からも急ぐべきです。

しかし、球場跡を国史跡に指定した場合、鳥大医の要望にも、城山観光用の駐車場も造れず、利便性を欠くこととなります。